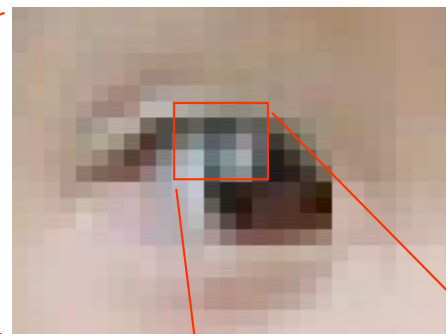


# デジタル画像とは

512 ピクセル

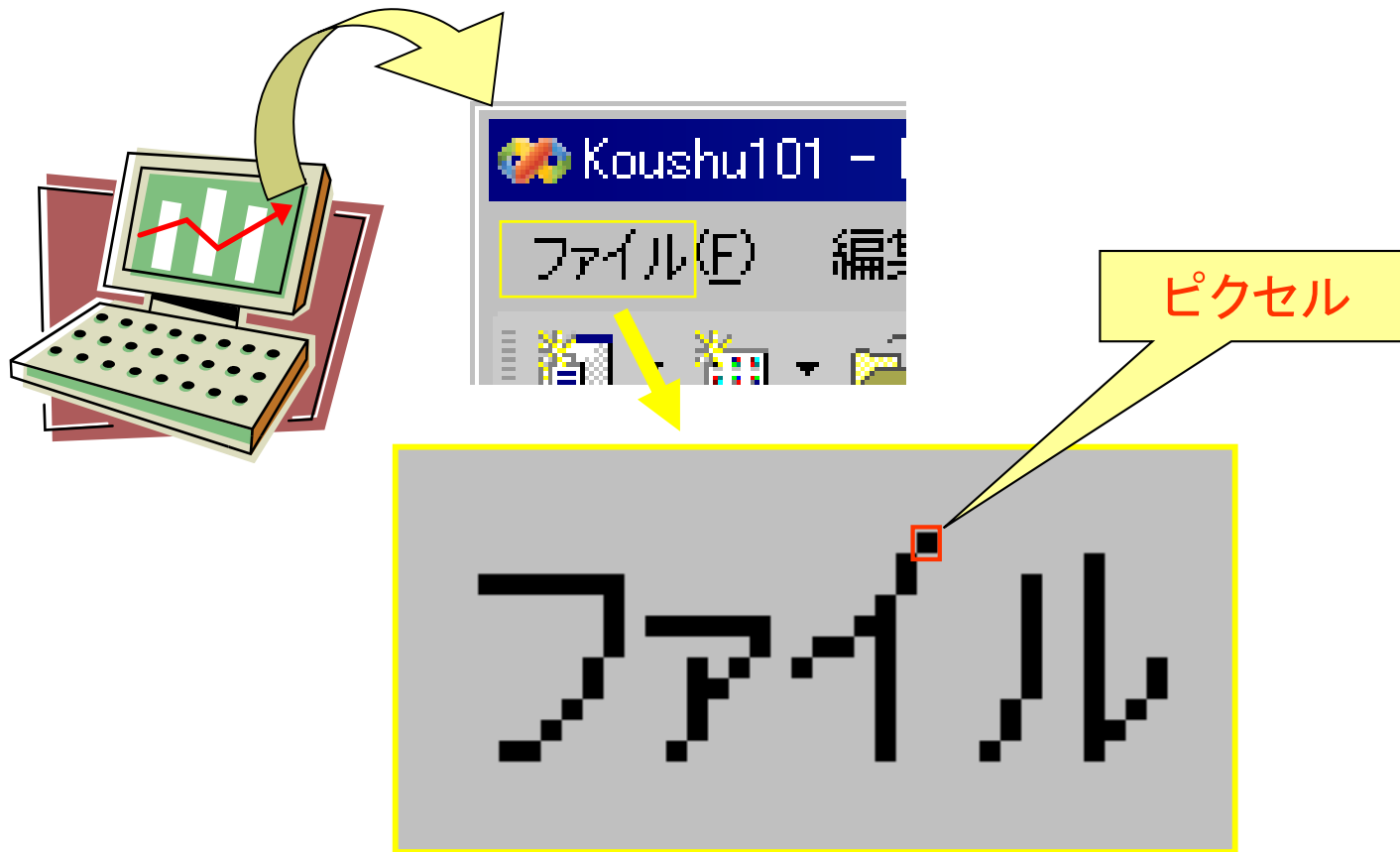


512 ピクセル



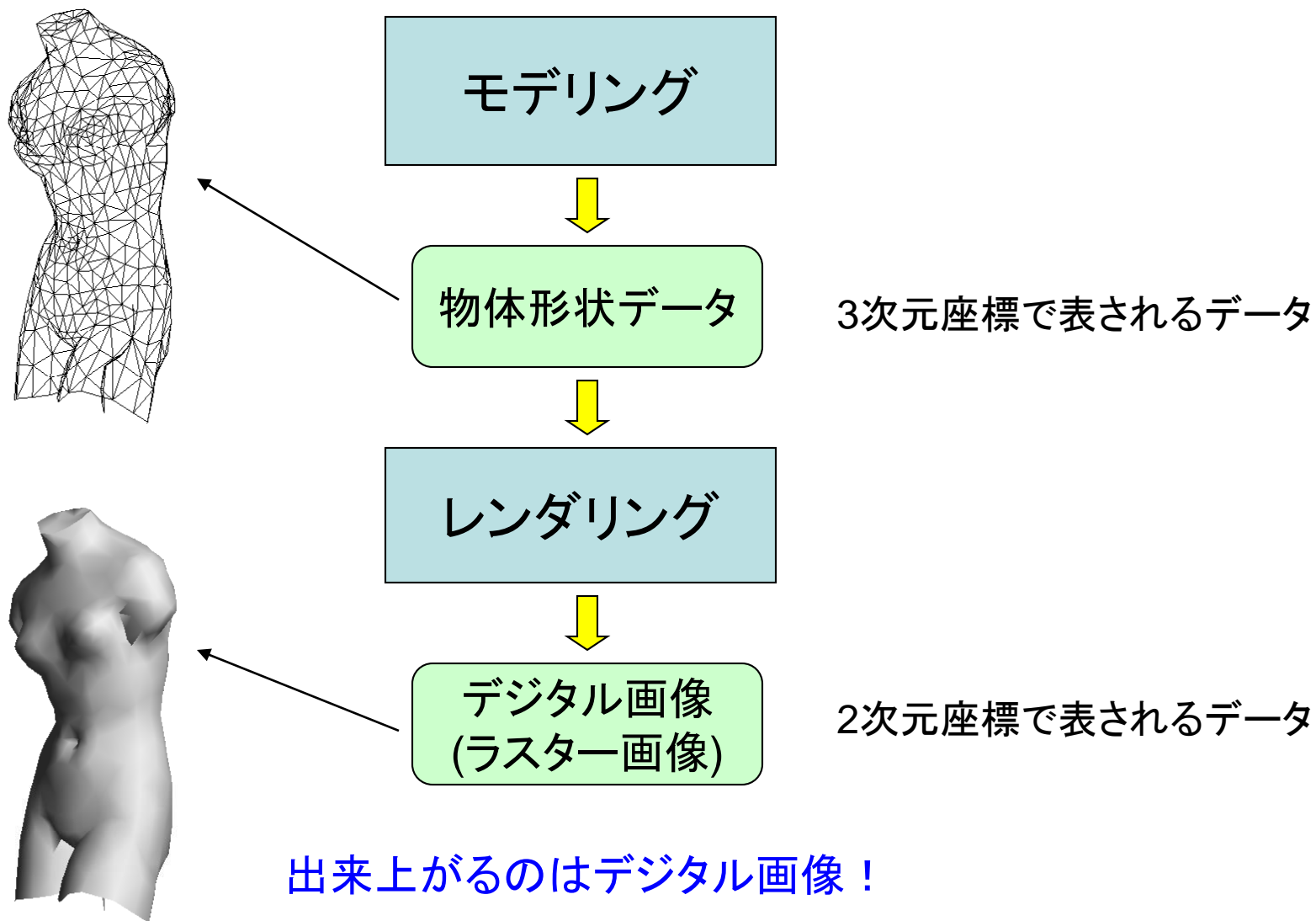
ピクセル  
(画素, 絵素, pixel)

# コンピュータの画面 = デジタル画像

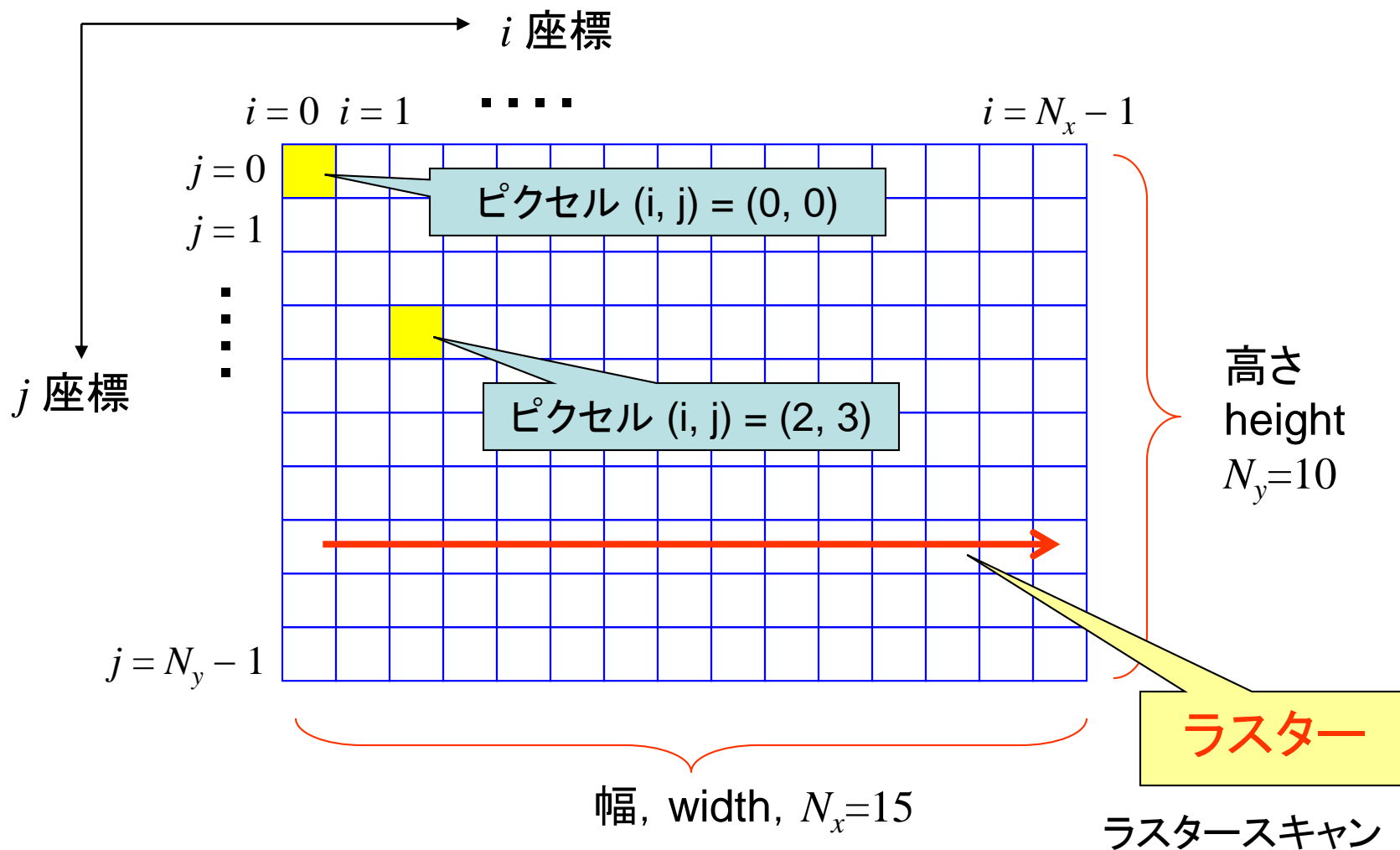


かなり古いパソコンやノートパソコン	横1024ピクセル x 縦768ピクセル	XGAサイズ
古いパソコンやノートパソコン	横1280ピクセル x 縦1024ピクセル	SXGAサイズ
最近のパソコン	横1920ピクセル x 縦1200ピクセル	WUXGAサイズ

# 3次元CGのおおまかな流れ



# ラスタ画像



# 実行結果としくみ

配列

image[i][j]

i=0 i=1 ...

j=0

j=1

実行結果

```

.....0.....
.....0.....
.....0.....
.....0.....
.....0.....
0000000000000000
.....0.....
.....0.....
.....0.....
.....0.....

```

続行するには何かキーを押してください . . .

0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

注: 基礎プログラミングではi方向が縦方向でj方向が横方向であったが, ここではその関係を逆転している. (この逆転はDrawChar Image()関数が行っている)

# ちょっとお遊び・・・文字で画像表示

```
#include <stdio.h>

// 幅xsizeピクセル 高さysizeピクセルの画像データimage[][]を文字で描く関数
void DrawCharImage(unsigned char* image, int xsize, int ysize);

#define WIDTH 15 // 画像の幅(ピクセル数)
#define HEIGHT 10 // 画像の高さ(ピクセル数)
int main(void)
{
    unsigned char image[WIDTH][HEIGHT]; // 画像データ配列の宣言
    int i, j; // ループ変数

    for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 2重ループで画像を一旦ゼロにクリアする
    {
        for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
            image[i][j] = 0;
    }

    for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 横線を引く
    {
        image[i][HEIGHT/2] = 1; // 横線はちょうど真ん中で引く
    }

    for (j = 0; j < HEIGHT; j++) // 縦線を引く
    {
        image[WIDTH/2][j] = 1; // 縦線もちょうど真ん中で引く
    }

    DrawCharImage((unsigned char*) image, WIDTH, HEIGHT); //画像描画関数呼び出し
}
```

## 考え方

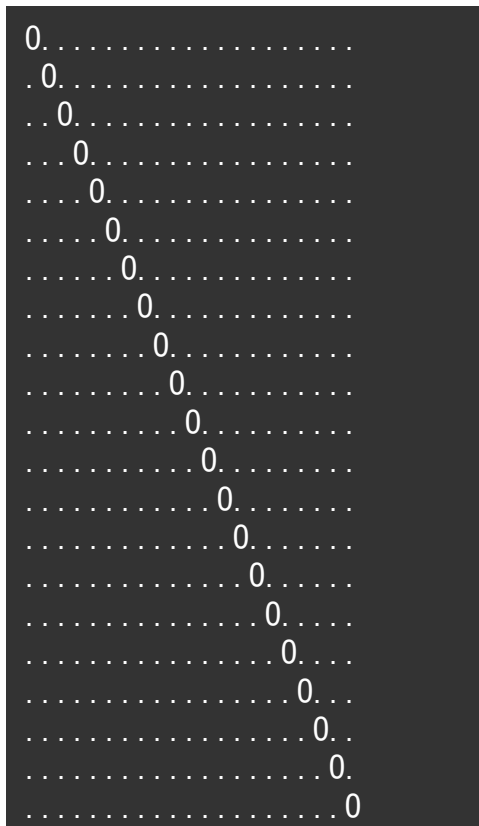
- (1) すべてを一旦0にクリア
- (2) 必要なピクセルだけを1をセット

# 今日の課題

DrawChar Image () 関数のソースをそのまま用いて, 次のような文字による画像を出力するmain()プログラムを作成せよ.

基本課題1

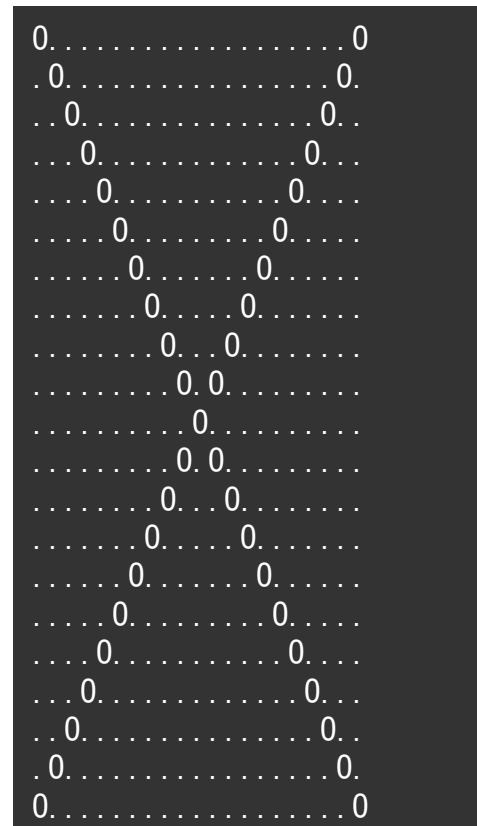
必ず提出



21 x 21 ピクセル

発展課題1

できれば提出



21 x 21 ピクセル

## 提出方法

- 基礎プロと同じく, Wordにソースと実行結果(画像)を貼り付ける.
- 関大LMSでWordのファイルをアップロードする.





# 基本課題1 さらに良い解答

正解例1

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++) // ゼロにクリアする
```

```
{  
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)  
        image[i][j] = 0;  
}
```

ループ回数 :  $21 \times 21 = 441$  回

合計

$441 + 441 = 882$

ループ回数 :  $21 \times 21 = 441$  回

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 2重ループで縦横の座標値が等しければ1にする.  
{  
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)  
        if (i == j)  
            image[i][j] = 1;  
}
```

正解例3

ループ回数 :  $21 \times 21 = 441$  回

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)  
{  
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)  
        if (i == j)  
            image[i][j] = 1; //座標値が同じなら1  
        else  
            image[i][j] = 0; //座標値が異なるなら0  
}
```

合計  
441

良くできました!

# 基本課題1 良くない例(≡不正解)

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++) // ゼロにクリアする
{
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
        image[i][j] = 0;
}
```

ムダ!

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    image[i][i] = 1;
}
```

```
for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
{
    image[j][j] = 1;
}
```

?!?

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++) // ゼロにクリアする
{
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
        image[i][j] = 0;
}
```

ムダ!

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
        image[i][i] = 1;
}
```

?!?

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++) // ゼロにクリアする
{
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
        image[i][j] = 0;
}
```

```
j = 0;
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    image[i][j] = 1;
    j++;
}
```

?!?

# 危険な不正アクセス！

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
        image[i][j] = 0;
}

for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    image[i][i] = 1;
}

for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
{
    image[WIDTH][j] = 1;
}
```

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++) // ゼロにクリアする
{
    for (j = 0; j < HEIGHT; j++)
        image[i][j] = 0;
}

for (i = -1; i < WIDTH; i++)
{
    image[i][j] = 1;
    j++;
}
```

j=0に戻していない  
ループ開始時 j=21

i=-1からループスタート??!

実行結果が正解と一致するのは単なる偶然！

```
#define WIDTH 8 // 画像の幅(ピクセル数)
#define HEIGHT 6 // 画像の高さ(ピクセル数)
配列 image[WIDTH][HEIGHT]
```

i = WIDTH

	i=0	1	2	3	4	5	6	7
j=0	1	0	0	0	0	0	0	0
j=1	0	1	0	0	0	0	0	0
j=2	0	0	1	0	0	0	0	0
j=3	0	0	0	1	0	0	0	0
j=4	0	0	0	0	1	0	0	0
j=5	0	0	0	0	0	1	0	0

j = HEIGHT ⇒

存在しない配列要素！

不正アクセス

運が良い時 ⇒ 何も問題は起きない  
(ただし正解と一致したのは偶然)

## 問題が起きるときの症状

- ✓ 途中でプログラムが停止しているが、一見正常終了
- ✓ 不正アクセス等のエラーメッセージで終了
- ✓ 突然、コンソールウィンドウ(黒ウィンドウ)が閉じる

今後はデバッガを利用せずに課題に解答するのは困難！

## デバッガの利用

### ツールバーでデバッグ

- (1) ツールボタンで右クリックして、デバッグを選ぶ
- (2) デバッグツールバーからボタンを選ぶ

### 特定の行からデバッグを始める

ソースプログラムの特定の行をポイントしておいて、右ボタンで「カーソル行の前まで実行」メニューを用いる



- (a) ステップオーバー
- (b) ステップイン
- (c) デバッグの中止

次の行を実行  
次の行を実行  
デバッグをやめる

ステップインは関数内部に入って1行ずつ実行する



(c)

(b)

(a)

ステップオーバーは関数内部に入らずに1行ずつ実行する

# 発展課題1の解答

## 考え方1

- (1) 2重ループしてすべてを一旦0にクリア
- (2) 必要なピクセルだけに1をセット

// . . . クリアの2重ループ(省略)

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    image[i][i] = 1;
}
```

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    image[WIDTH - 1 - i][i] = 1;
}
```

ループ回数  
21+21 = 42

プログラムの  
効率が重要

// . . . クリアの2重ループ(省略)

```
for(i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    for(j = 0; j < HEIGHT; j++)
    {
        image[i][i] = 1;
        image[HEIGHT-1-i][i] = 1;
    }
}
```

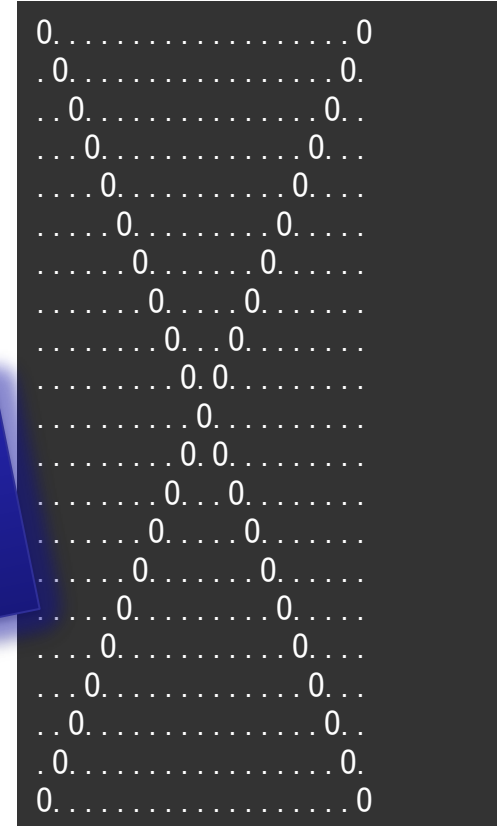
ループ回数  
 $21 \times 21 = 441$

ムダ！

// . . . クリアの2重ループ(省略)

```
for (i = 0; i < WIDTH; i++)
{
    image[i][i] = 1;
    image[WIDTH - 1 - i][i] = 1;
}
```

良くて  
ました!





# 良いソースと悪いソース

```
int main(void)
{
    unsigned char image[WIDTH][HEIGHT]; // 画像データ配列の宣言
    int i, j; // ループ変数
    for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 2重ループで画像を一旦ゼロにクリアする
    {
        for (j = 0; j < HEIGHT; j++) image[i][j] = 0;
    }
    for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 横線を引く
    {
        image[i][i] = 1; // 横線はちょうど真ん中で引く
    }
    for (i = 0; i < HEIGHT; i++) // 横線を引く
    {
        image[i][HEIGHT-i-1] = 1; // 横線はちょうど真ん中で引く
    }
    DrawCharImage((unsigned char*) image, WIDTH, HEIGHT); //画像描画関数呼び出し
}
```

誤ったコメントが付いている場合、今後は0点になる！

```
int main(void)
{
    unsigned char image[WIDTH][HEIGHT]; // 画像データ配列の宣言
    int i, j; // ループ変数
    for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 2重ループで画像を一旦ゼロにクリアする
    {
        for (j = 0; j < HEIGHT; j++) image[i][j] = 0;
    }
    for (i = 0; i < WIDTH; i++) // 行数分ループ
    {
        image[i][i] = 1; // 左上から右下に線を引く
        image[i][WIDTH-i-1] = 1; // 右上から左下に線を引く
    }
    DrawCharImage((unsigned char*) image, WIDTH, HEIGHT); //画像描画関数呼び出し
}
```

# グレースケール画像

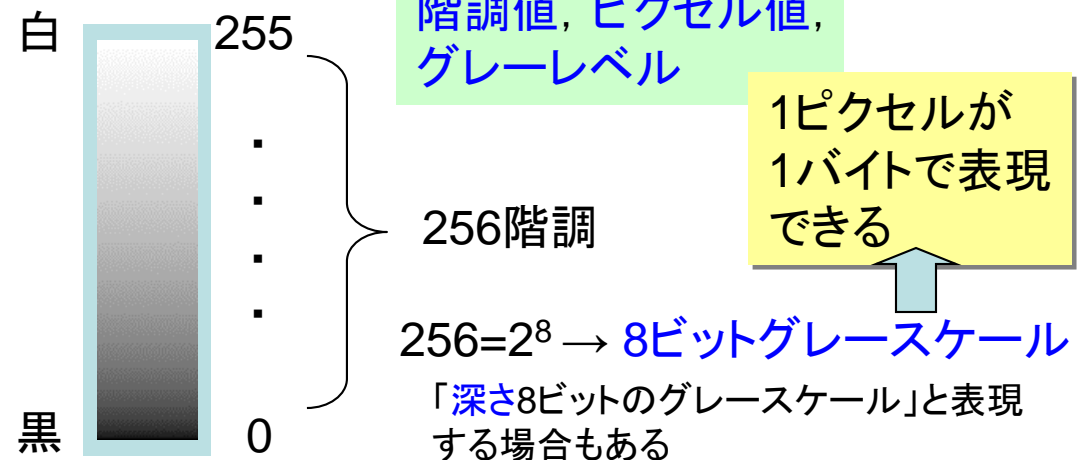
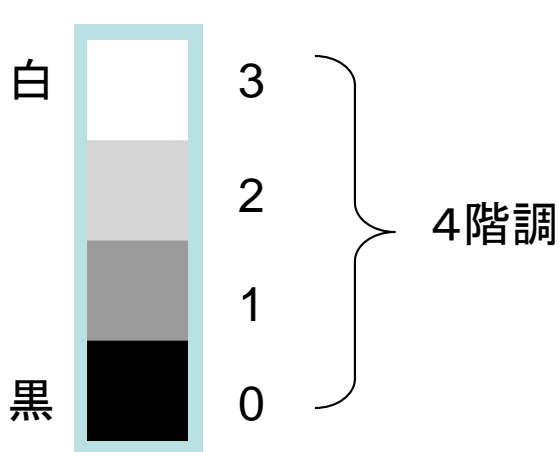
カラー画像



グレースケール画像



階調 = 1つのピクセルの明るさの段階

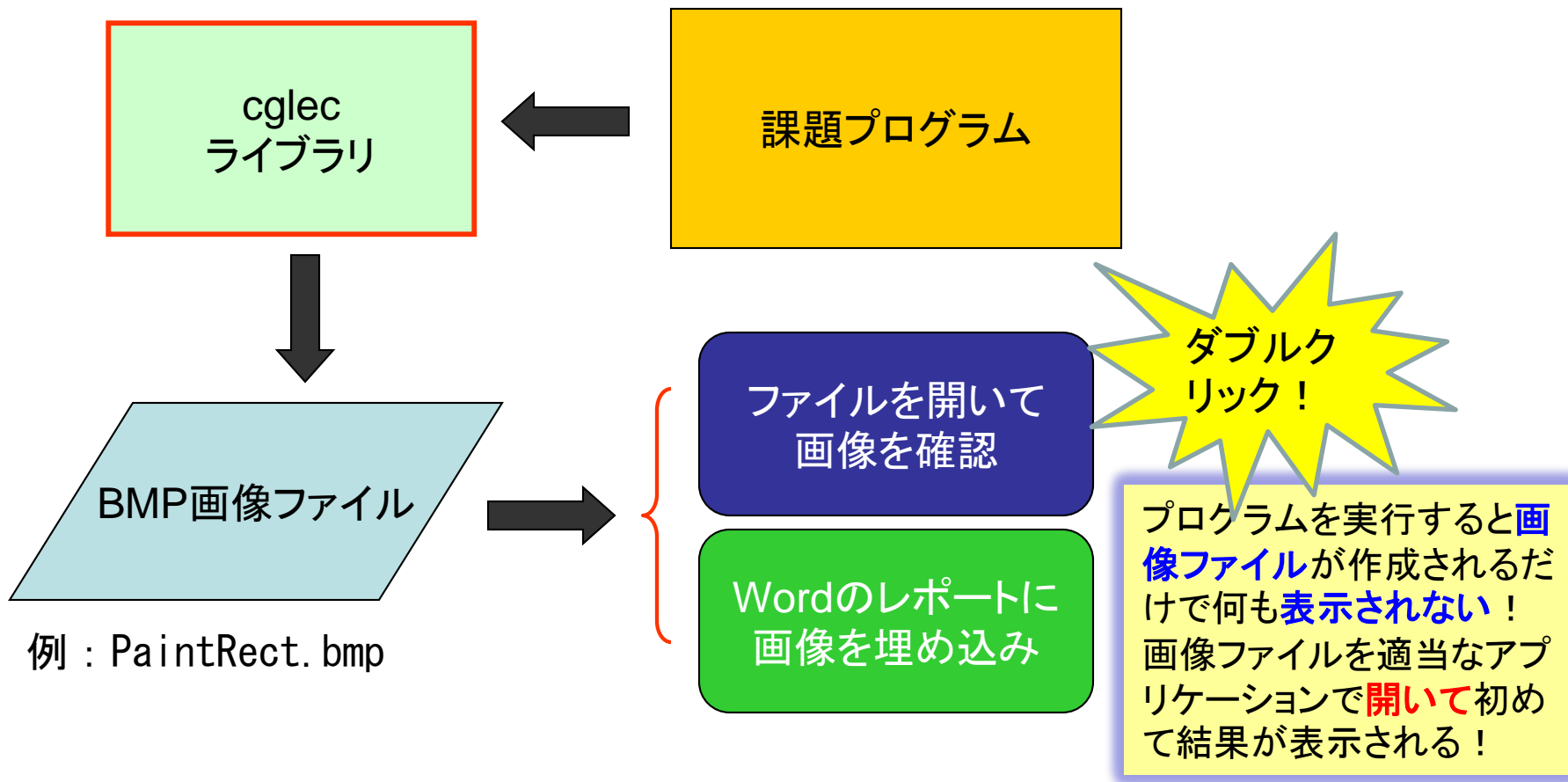




# グレイスケール画像を描くCGプログラミング

cglecライブラリ : この授業用に開発された2次元CG用ライブラリ

Visual Studioで各自が作成



# cglecの利用準備: 構造体

ー オブジェクト指向の第一歩 ー

いくつかの変数をまとめて管理する変数

例えば

複素数型

実部と虚部のfloat型の2変数からできている

日付型

年, 月, 日を表すint型の3変数からできている

学生身体データ型

学籍番号(int型変数)

名前(文字列変数)

誕生日(日付型構造体)

身長(float型変数)

体重(float型変数)

例えば、課題が

「A君の誕生日をa, B君の誕生日をbとし、どちらが早く生まれたか比べなさい・・・」

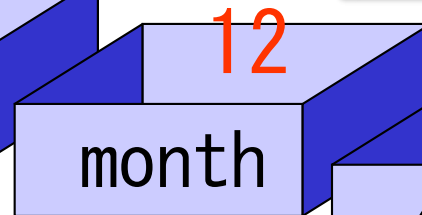
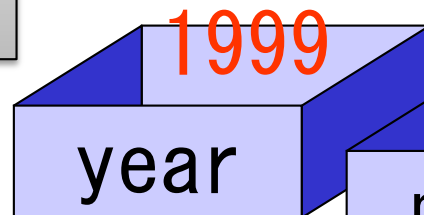
日付aや日付bを表す変数があると便利

⇒実際には日付は複数の変数でできている

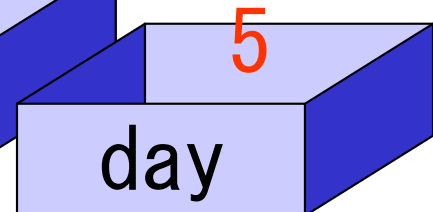
## 構造体変数

### 普通の変数

(ここでは年・月・日)

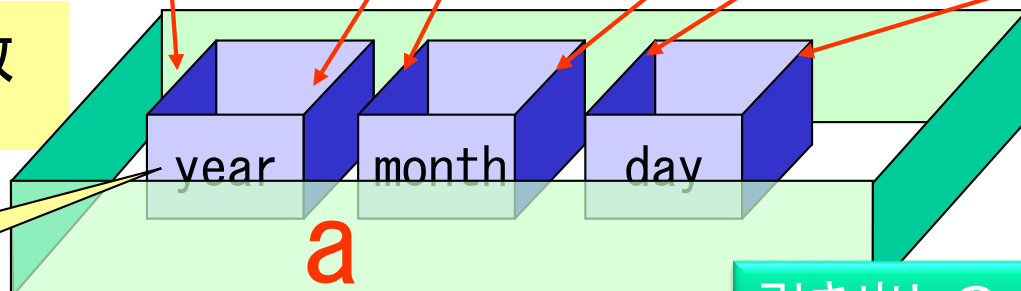


箱のイメージ



### 構造体変数

(ここでは日付)



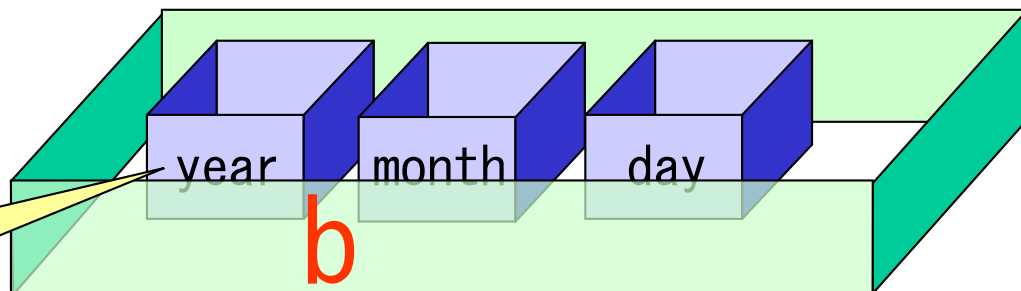
引き出しのイメージ

構造体変数aの中のyear  
プログラム中では a. year

ピリオド

構造体変数bの中のyear  
プログラム中では b. year

ピリオド



同じ構造をした「引き出し」変数を構造体変数と呼ぶ

キーワード

struct

## 構造体のプログラム例(1) — 日付型

構造体内の変数をメンバ変数と呼ぶ

Date型の構造体の定義

Dateは変数ではなく設計図

```
#include <stdio.h>
```

```
struct Date
```

```
{
```

```
    int year;
```

```
    int month;
```

```
    int day;
```

```
};
```

```
void main()
```

```
{
```

```
    Date a, b;
```

```
    a.year = 2015; a.month = 7; a.day = 1;
```

```
    b = a;
```

```
    b.day = 2;
```

```
    printf("初めの日付は%d年%d月%d日, ", a.year, a.month, a.day);
```

```
    printf("次の日付は%d年%d月%d日\n", b.year, b.month, b.day);
```

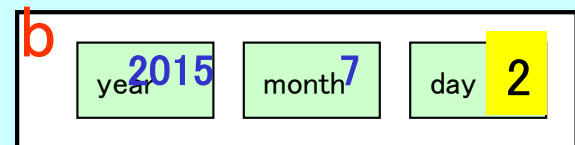
```
}
```

Date型の構造体変数  
aとbの宣言

a.year は構造体変数aのメンバ変数yearを意味する

b.day は構造体変数bのメンバ変数dayを意味する

構造体  
変数aを  
bに代入



初めの日付は2015年7月1日, 次の日付は2015年7月2日

## 構造体のプログラム例(2)

```
struct Date
{
    int year;
    int month;
    int day;
};
```

構造体変数を宣言  
すると同時に初期化

```
void main()
{
```

```
    Date a = {1998, 6, 28};
```

```
    Date b;
```

```
    b = {1998, 6, 29};
```

```
    Date c[20];
```

```
    c[15].year = 1998;
```

```
    c[15].month = 6;
```

```
    c[15].day = 28;
```

同時ではないのでダメ  
エラー

Date型構造体の配列の宣言

Date型構造体配列のインデッ  
クス15の要素に値を代入

```
    printf("今日は%d年%d月%d日¥n", c[15].year, c[15].month, c[15].day);
```

```
}
```

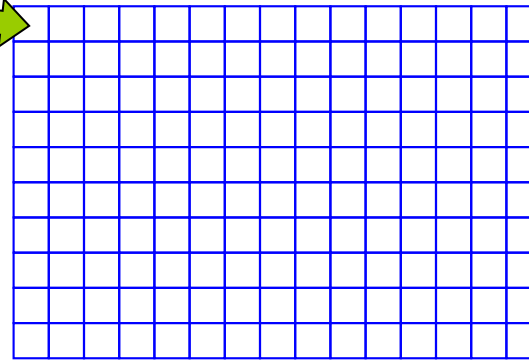
※この例では配列の添え字15には特に意味はない

# 画像を管理する構造体の定義

```
struct Image
{
    unsigned char* Data; // データ領域へのポインタ
    int Nx;               // 横方向ピクセル数
    int Ny;               // 縦方向ピクセル数
};
```

この構造体は  
ヘッダファイル  
cglec.hの中で定  
義されている

データ領域の  
アドレス  
(ポインタ変数)



高さ  
 $N_y=10$

幅  $N_x=15$

一つのImage型構  
造体変数が一つの  
画像を表す

複数の画像を用いる時に便利

# cglecライブラリを使って 8ビットグレースケール画像を描く

## Example2-1

```
#include "cglec.h"  
#define WIDTH 400  
#define HEIGHT 400
```

cglecライブラリのヘッダファイル読み込み  
(Image構造体の定義もここにある)

```
int main(void)  
{
```

```
    unsigned char data[WIDTH][HEIGHT];
```

データ領域の確保

```
    Image img = { (unsigned char*) data, WIDTH, HEIGHT };
```

Image型構造体  
変数のimgを宣言  
して初期化

```
    CglSetAll(img, 0);  
    int x, y;
```

// imgをグレイレベル0でクリアする

```
    for (y = 100; y < 150; y++)  
    {  
        for (x = 100; x < 200; x++)  
            data[x][y] = 255;  
    }
```

cglecライブラリのCglSetAll()  
関数を呼び出す

// グレイレベル255(白)の四角形描画

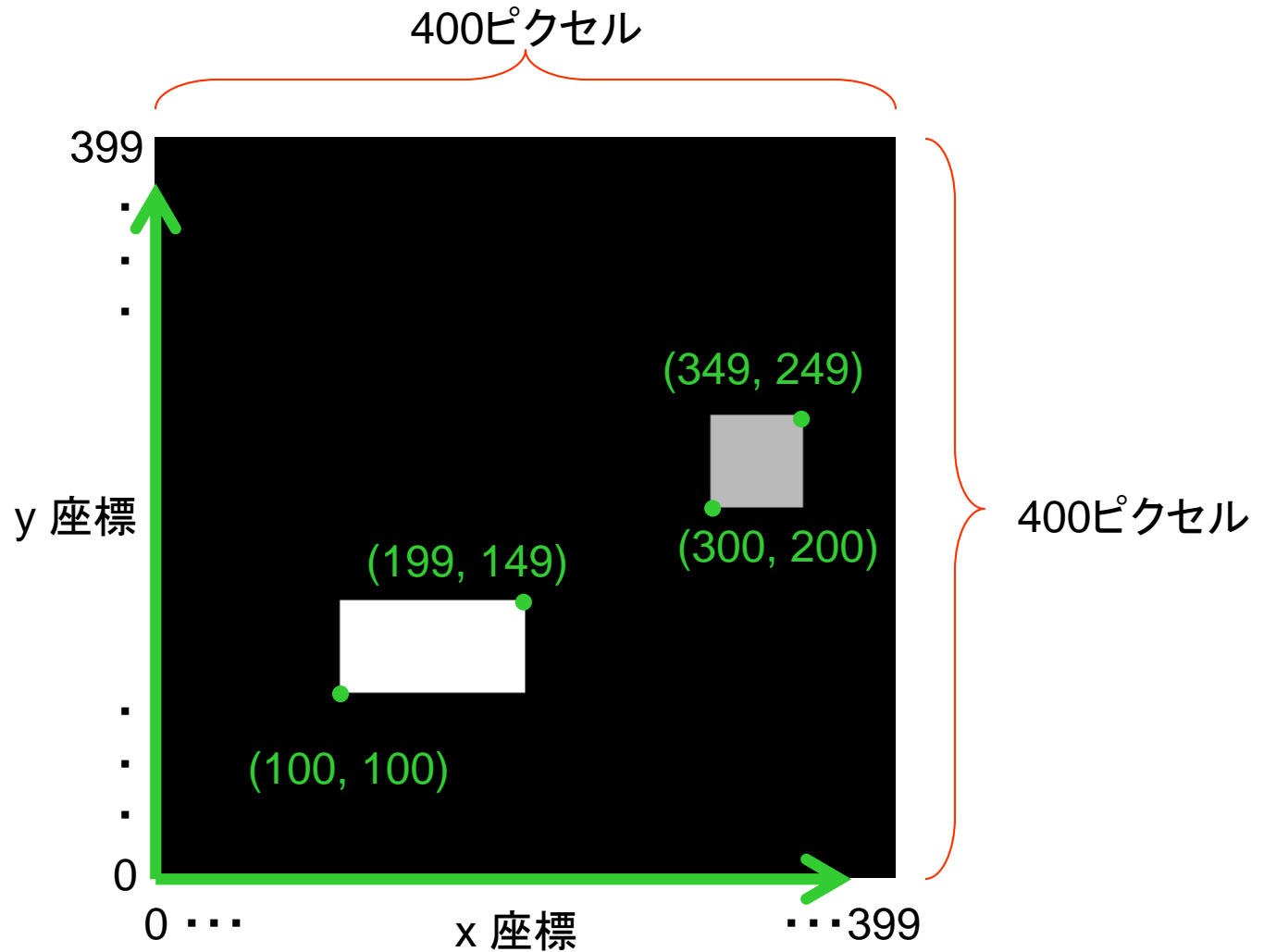
```
    for (y = 200; y < 250; y++)  
    {  
        for (x = 300; x < 350; x++)  
            data[x][y] = 127;  
    }
```

// グレイレベル127(灰色)の四角形描画

```
    CglSaveGrayBMP(img, "PaintRect.bmp");  
}
```

cglecライブラリのCglSaveGrayBMP()  
関数を呼び出す

# 実行結果(PaintRect.bmpファイル)





# cglecライブラリの関数

```
void CglSetAll(Image img, unsigned char level)
```

画像全体を一つのグレーレベルで塗りつぶす関数

img      塗りつぶす画像を示すImage型構造体変数  
level    グレーレベル

```
void CglSaveGrayBMP(Image img, const char* fname)
```

画像をBMPファイルとして保存する関数

img      保存する画像を示すImage型構造体変数  
fname    ファイル名(拡張子は「.bmp」にしておくこと)

プロジェクトフォルダ  
各自が作成したソース  
ファイル(〇〇〇.cpp)が  
あるフォルダ

cglecライブラリを使うには

LMSから、ファイルcglec111.zipをダウンロードし、それを解凍して中にある次の3つのファイルをVisual Studioのプロジェクトフォルダに入れておく

cglec.h	}	⇒ この2つはコンパイル(ビルド)時にのみ必要なファイル ⇒ プログラム実行時に必要なファイル
cglec.lib		
cglec.dll		

注) 新たにプロジェクトを作成するたびにそのプロジェクトフォルダーに3つのファイルをコピーしておく必要がある。(いちいちコピーしなくても良い様に設定できるが、少し設定が難しい)

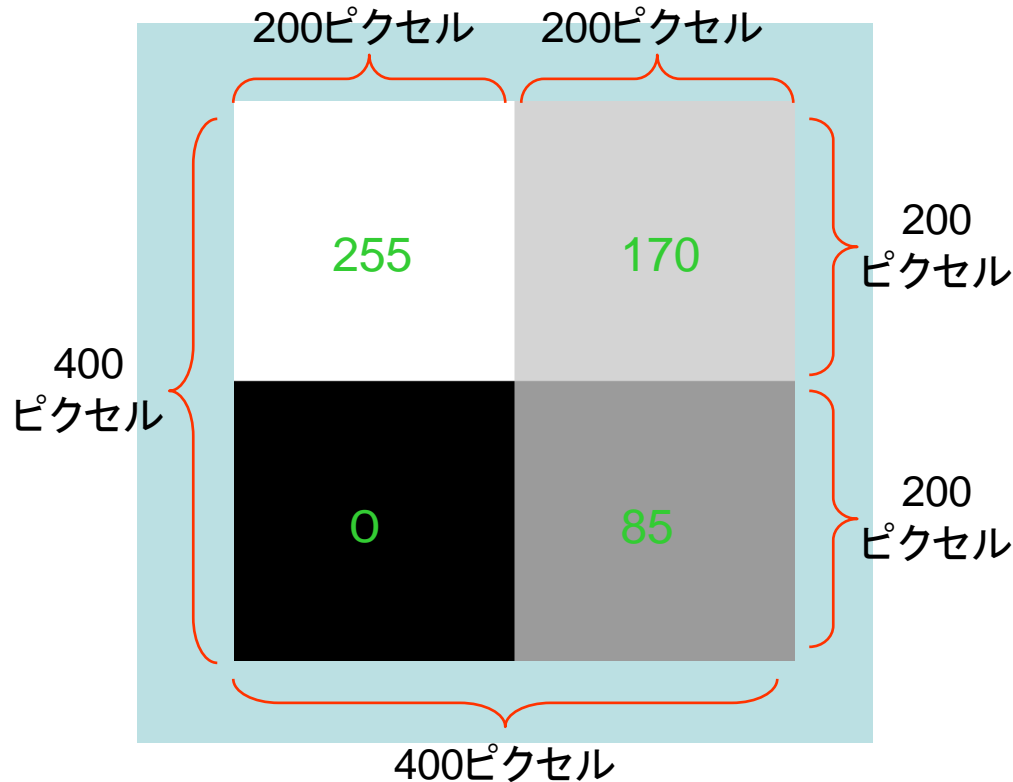
(注) 必ず最新のcglec (cglec111.zip)を使用して  
ください。 Rel.1.1.0以前のcglecではガンマ値が  
1.0であるため、この結果と一致しません。

# 今日の課題

次のようなグレースケール画像を作り出すプログラムを作成せよ。  
(緑色の数字はグレーレベル)

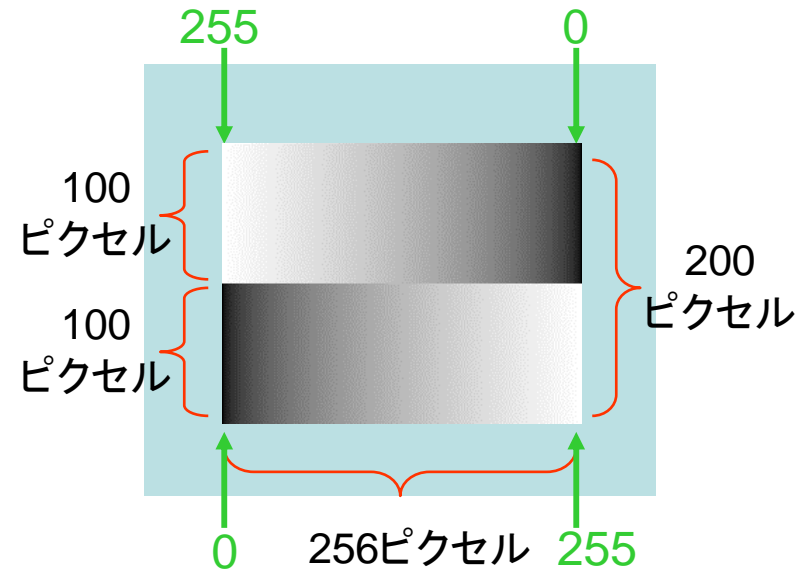
## 基本課題2

必ず提出



## 発展課題2

できれば  
提出



※階調が1レベルずつ連続的に変化すること

**提出方法** Wordファイルに以下を貼りつけてLMSにアップ  
(1)ソース, (2)実行結果(画像)